

第1号議案 事業報告書

2024年度事業・活動報告書

一、事業・活動概況

- ・年度損益で大きな赤字が残ったことが事業経営上、第一の問題点です。
- ・小規模多機能型居宅介護事業所では年度前半で利用者の急激な介護度の下降に苦しみましたが、年度後半にはなんとか回復しました。一方では23年度後半に極端な職員不足で事業所運営に苦労しましたが、24年度は体制としては回復しました。しかし、得られる介護報酬とのバランスでは直接費でギリギリの収支という状態です。

運営効率をどう改善するかが大事な課題です。

事業所の運営面では現場の介護職メンバーにリーダー職を設け、様々な課題について介護職、看護職、ケアマネージャーそれぞれがその専門の立場から連携して運営することを目指しました。

例えば、介護の現場でよく使われている「ヒヤリハット」報告書の形式を改めて、「私の気づきメモ」としました。職員が日常のケア業務の中で気づいたことをメモ書きとし、それをリーダー、看護職、ケアマネージャー、そして最終的に事業所管理者がチェックし、それぞれの立場からコメントするという形式です。従来あまり提出がありませんでしたが、新しい書式では多数提出されるようになりました。

まだ道半ばではありますが改善が進んでいると見えています。

当事業所が立地する地区を所管する武庫東地域包括支援センターあるいは周辺の主だった医療機関との関係ではこの間しかるべき受け止めを得てきており、利用者の受け入れについて適宜声がけがなされる関係が作れています。

パンセ事業所が作られて7年になりますが、建物内での様々な備品の配置、物品の保管などでチグハグが目立ってきました。そこで現場メンバーからの発案を受けて、改善の取り組みを始めています。掲げているスローガンは「スッキリきれい」です。

- ・サービス付き高齢者向け住宅事業所では年間を通じて、ほぼ満室を維持できました。入居者の入れ替わりへの対処を的確に進めることが出来ました。その為、事業所としては直接費段階で一定の剰余を残すことが出来ましたが、法人全体の損益を支えるという意味で収益を更に高める措置が必要となっています。
- ・利用者に食事を提供する厨房は生活クラブ生協の消費材などを活用した自家調理にこだわって運営してきました。利用者の評価はしかるべく受けていると考えていますが、損益が不調です。年間200万円ほどの赤字になってしまいました。前々年度、前年度、この間2回にわたって提供する食事の単価の見直しを行なっていますが、引き続き食材価格の高騰で粗利益が減少気味です。また、職員の入れ替わりがかなりあった為、後任の育成の為、厚めの職員体制を敷く時期があったこと、その職員採用の為の広告費用が高かったことなどが経費増に結びついています。25年度はその部分は落ち着くとして、引き続き食材価格の高騰への対応と効率的な運営の実現に工夫が必要です。
- ・法人本部ではNPO法人としての会費収入が軒減してきていることが問題です。当法人設立時には生協都市生活(当時)理事会あげて取り組みがなされ、多くの会員が生まれました。その後、時間の経過とともに軒減してきています。その意味で今回生活クラブ生協と共催で開催した「老いを迎える」セミナーな

どで新たな会員の参加を得ていく取り組みが必要です。

- ・職員のための就業規則、給与規定の改善の為の取り組みを社会保険労務士の関与を受けて、進めています。職員の職務意欲を高める方向で改善を進める必要があります。
- ・法人全体としては設立当初からの事業所である「あしすと」の訪問介護事業所、居宅介護支援事業所を閉鎖することになったのは残念なことでした。職員の採用難、後継者育成の不調などが要因ですが、社会的にはその事業形態の必要度が減少しているのではないので、このような結果となったことは私たちの運営力の不十分さと押さえる必要があります。現時点では当法人の事業所は尼崎市武庫之荘地区の小規模多機能型居宅介護事業所及びサービス付き高齢者向け住宅事業所のみとなっています。高齢者の支援の為の事業はますますその必要性が高まっていますので、その需要に相応しいものをどう提供できるのか、引き続き努力していきたいと考えています。
- ・運営効率の向上などで近隣の同業事業所との提携関係作りも模索したいと考えています。
- ・生活クラブ生活協同組合都市生活としての居場所活動もいよいよ具体的な動きの段階に入っています。当法人としても連携した取り組みを進め、他の地域活動も含めて地域での存在感を高めていきたいと考えています。
- ・一昨年の総会で確認された「当法人のあり方及びケアのための事業・活動のあり方」の具体化は上記のように検討を進め、模索中です。
- ・運営・経営メンバーの後継育成も引き続き重要な課題です。

二、サービス付き高齢者向け住宅事業

【高齢者向け住宅の管理・運営および経営】

☆入居者数推移

(全 20 室)	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
計画(室)	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
入居者数(室)	20	20	20	19	19	20	20	20	19	20	20	20
入居率(%)	100%	100%	100%	95%	95%	100%	100%	100%	95%	100%	100%	100%

☆ 入居状況ならびに事業収益

- 年間の居住者の入れ替わりは 5 名、そのうち 4 名が逝去によるものでした。空室の対応については予約者(入居待機者)への声掛けを通じて 2 名が入居されたものの、ご家族の希望とは裏腹に当事者(高齢者)が「まだ自宅で暮らしたい」との理由から入居に至らなかつたり、すでに逝去されていたり、あるいは施設に入所されているケースもありました。
- 年度初めに 17 名あった予約者は 9 名にまで減りましたが、生活クラブ生活協同組合都市生活の組合員に対しサ高住の広報を行った結果、15 名にまで回復しました。このような、一定程度の予約者を維持するための不断の広報活動と同時に、当事者の現状を含めた状況変化の把握、ならびに入居意思の確認を適宜行っていくことの必要性を痛感しました。
- 物価高騰の勢いは多少鈍くなってきているとは言えいまだ衰えておらず、例えばサ高住の水道光熱費は前年対比で 23% を超える状況となっています。また、同じく支出増という意味では、最低賃金の改定をふまえ、従業員の賃金を 10 月に再度引き上げています。

- このような大幅な経費の増加は、法人全体の事業の収支を悪化させており、ある程度まとまった収入増が見越せる、入居者の負担金の見直しなどについて検討せざるをえない状況にあると考えています。

☆ 利用者への食事の提供—厨房の運営

- 23～24年度にわたり2度行った食事代金の改定、比較的価格が安定している生協の定期購入品の利用、チラシに掲載されている小売店の値段をこまめにチェックしながらの買い出しなど、物価高騰への対策を行ってきました。
- 食材の仕入高が年間で80万円ほどコストアップしています。比較的高い数値がパンセ厨房の特長となっていたGPR(粗利益率)が前年対比で2ポイントほど逡減しており、物価高騰が収まらない中であって、さらに踏み込んだ検討が課題となっています。
- コアメンバー3名による献立会議を月2回開催し、利用者の食事の様子や残食の傾向などをふまえ、似たような献立が続かないように配慮しながら立案しています。
また、スタッフが全員参加する厨房会議については引き続き月例で開催しており、嚥下状況などをふまえた刻み食やお粥などの個別対応の確認を行っています。
- おかずを盛り付けた後のお皿や小鉢を出食まで一時的に置いておくための棚の設置、使用中の調理器具などを置くキャスター付きのミニワゴンの購入、玉ねぎやジャガイモなどを屋外で保管しておくストックヤードの整理整頓など、広々しているとは言い難い厨房を効率的に使用するため、様々な工夫を凝らしました。

☆ 防災対策

- 災害時や感染症のまんえん時にあっても現在の事業を継続するための体制作りを策定した、いわゆるBCP(事業継続計画)をふまえて、非常用電源や照明ならびに食料や物品の確保と、それらの保管場所と在庫数(備蓄量)の把握と掲示作業に取り組みました。
- 24年11月に地元の農業委員長からパンセ周辺の水路に関してレクチャーしていただきました。これは集中豪雨等によって水路の氾濫など水害が発生した際、周辺住民とともに行える防災・減災活動のあり方を模索しようと、水路の役割や管理方法を把握しておくために行ったものです。来年度はいよいよ周辺住民を巻き込んだ具体的な取り組みに着手します。

☆ 清掃業務

パンセ開設時から従事して下さっていたベテランのスタッフが、年度末を持って退職しました。パンセ開設当初からこれまで、このような献身的なスタッフの工夫と経験に任せた形で行ってきた清掃業務ですが、今回を契機に業務全体の見直しを行い、さらにステップアップしたいと考えています。

三、介護保険事業

1. 小規模多機能型居宅介護事業所の運営

【介護保険法に基づく小規模多機能型居宅介護及び介護予防小規模多機能型居宅介護】

1) 利用者数推移(2024年度)

(人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録定員	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29
登録者数	26	25	25	24	25	25	25	24	25	26	26	23
登録者数 (23年度)	24	24	24	22	22	24	23	24	24	24	25	23

- ① 登録者数の実績はほぼ計画通りとなりました。今年度は3名の方々を看取りました。要介護度の年度平均は約2.35(前年度2.27)でした。
- ② 利用につながった新規の方々の紹介元は、武庫東地域包括支援センター、職員家族、近隣からの直接問い合わせでした。
- ③ 前年度に引き続き、今年度も宿泊室の稼働率が高止まりで、いわゆるベッドコントロールが厳しくなっています。宿泊室は6部屋しかなく、昼間は静養室としても使われるので、比較的重度の方で連続宿泊が必要な方の新規受入が依然として困難な状況が続いています。

2) 行事・イベント一覧

引き続き新型コロナ対策のため今年度も行事・イベントは最小限に絞りましたが、4年ぶりにハーモニーによるミュージックセラピーを再開しました。また新機軸としてTCC職員によるギター弾き語りコンサートを行いました。外部の方々を招いたイベントはクリスマスコンサートのみでした。

- ・12月24日:クリスマスコンサート=トーンチャイム、クリスマス会
- ・12月28日:ギター弾き語り(事務局職員)
- ・3月3日:ミュージックセラピー

3) 運営推進会議の開催

小多機事業所は地域密着型とされ、その運営はこの地域の関係者に支えられています。武庫東地区の「地域包括支援センター」の代表、この地域の民生委員、介護事業運営の経験者、小多機ご利用者のご家族、当事業所の管理者、ケアマネージャーが参加します。今年度は予定通り年6回開催することができました(毎偶数月)。

4) リーダー会議

2024年11月からリーダー会議を設置しました。リーダー会議の構成員は常勤職員のリーダー2名、小多機管理者、小多機ケアマネ2名、理事長からなり、おおむね週1回開催されます。2024年度は13回開催されました。

5) 全体会議・フロアミーティングの開催

- ① 月1回、全介護スタッフが参加する全体会議は、2022年度後半から月2回(基本的に同一内容)の開催を継続しています。基本的に毎回短時間のオンライン研修などを取り入れています。
- ② 月に2~4回のペースで開催される(ご利用者個別に寄り添う)個別ケア会議(フロアミーティング)は2022年10月度以降は開催できていませんでしたが、2025年5月に再開しています。

6) 「パンセ再整備のためにプロジェクトへ向けて

パンセの建物は収納スペースに乏しく、器具・用具、物品等の置き場がこれまで必ずしも整理されているとは言えないという状況にありました。これと関連して消耗品等(事業所・個人の双方)の管理方法も再考を要する課題が複数ありました。そこで小多機職員の中からメンバーを選抜してこうした課題に取り組み解決するプロジェクトチーム「パンセ再整備のために」を結成し、活動を始めました。(2024年度末)

7) 「ヒヤリハット」から「気づき」へ

これまで、事故には至らなかったものの「ヒヤリ」としたり、「ハッと」した事象をその都度ヒヤリハット報告書にまとめてスタッフ全員で共有してきました。2025年2月からはスタッフの経験と注意力を一層広く深く共有するため、報告書の表題を「ヒヤリハット」から「気づき」に改めました。その結果、報告の数が大幅に増し、スタッフの取り組み姿勢が一層積極的になっています。

8) 研修等の実施

以下の研修・訓練を行いました。

- ・2024年4月:身体拘束適正化、虐待防止について指針を確認
- ・2024年5月:ポジショニングについて
- ・2024年6月:①BCPにおける優先業務について(非常災害・感染症)②虐待・不適切ケアを防ぐ
- ・2024年7月:ポジショニングにおけるクッション類の使用について
- ・2024年8月:利用者の事例検討
- ・2024年9月:不適切ケアと虐待
- ・2024年10月:誤薬を防ぐために
- ・2024年11月:身体拘束・虐待についての意見交換
- ・2024年12月:身体拘束・虐待についての意見交換
- ・2025年1月:①(外部)(認知症の方とのコミュニケーション力を高める)バリデーションセミナー in 尼崎(職員2名参加)②(ベッド上)仰臥位から端座位へ=意見交換
- ・2025年2月:介護職員の「気づき」(2024年12月～2025年2月に計4回)
- ・2025年3月:(外部)フレックスボード研修(職員2名参加)

なお、引き続き新型コロナ対策については毎回の全体会議の場で、全国的な感染状況等を確認し、繰り返し注意と指示を行いました。入居者・利用者のコロナ感染はゼロ、TCC全職員では8名が感染しましたが、パンセ内部での集団感染はありませんでした。

2. 都市生活ヘルパーステーションあしすと武庫之荘の運営

【介護保険法に基づく訪問介護事業、介護予防訪問介護事業及び介護予防・日常生活支援総合事業、障害者自立支援法に基づく障害者支援サービス事業、居宅介護支援事業】

- 1) 訪問介護事業所は2024年6月をもって廃止しました。利用者の引き継ぎ、実務的な残務処理等はスムーズに完了しました。
- 2) 居宅介護支援事業所は2025年3月をもって廃止しました。利用者の引き継ぎ、実務的な残務処理等はスムーズに完了しました。

2024年4月～2025年3月までの利用者数と収支はほぼ前年度並みの実績となりました。

3. 介護保険等の高齢者福祉事業に従事する実務者研修

【地域福祉に関する事業又は活動を行う市民団体のためのリーダー養成・講習会の開催】

研修については上記の小規模多機能型居宅介護の項目をご参照ください。

4. 介護事業全体

【高齢者向け住宅の管理・運営および経営】

【介護保険法に基づく小規模多機能型居宅介護及び介護予防小規模多機能型居宅介護】

【介護保険法に基づく訪問介護事業、介護予防訪問介護事業及び介護予防・日常生活支援総合事業、障害者自立支援法に基づく障害者支援サービス事業、居宅介護支援事業】

サービス付き高齢者向け住宅事業、小規模多機能型居宅介護事業所、訪問介護事業所、及び居宅介護支援事業所のそれぞれの管理者から構成される武庫之荘会議を毎月開催しました。なお、この会議の際には、身体拘束適正化委員会、虐待防止検討委員会及びBCP策定委員会(自然災害・感染症)を同時開催しています。

四、ボランティア部門

1. 災害救援

【自然災害の被災者の生活の救援・復興支援のための救援物資調達・配送、募金活動】

内外の自然災害における応急救援や生活支援等に取り組む活動をしている専門団体との協力関係を維持しています。

2. 地域福祉

1. ふれあい喫茶

ボランティアグループ すまいる

[地域の誰もが参加出来るたまり場の開催]

・「すまいるサロン」 毎月第一金曜日

開催場所	開催回数	活動者数 (スタッフ)	参加人数
ポートアイランド UR 団地 67 棟集会所	13	45	98人

・中央区社協つながり応援授業

①黒板アート 8/2 ②コミュニケーション麻雀 9/6 ③吹き矢 10/4

・トライやる・ウィーク受け入れ中学生 8人 認知症サポーター養成講座を開催

・まちライブラリーみなとじま(私設図書館=みんなの居場所)

ボランティアリーダーを担当し運営メンバーとして参加(岡部)

40代世代中心に色々な企画やイベントを開催し認知度が広がってきています

神戸市企画のポートアイランドリボンプロジェクトにも参画しています

2. ミュージックセラピー

ミュージックセラピーグループ ハーモニー

[ミュージックセラピーのセッション実施事業およびミュージックセラピスト養成事業]

2024 年度 活動実績

	施設名	所在地	分野	年間活動回数	年間活動者数	年間対象者数	職員数
1	松の園	西宮市田近野町	障がい者支援施設	48	278	1246	109
2	カトレアの園	西宮市田近野町	障がい者支援施設	24	137	383	42
3	舞子台	神戸市垂水区	特別養護老人ホーム	11	51	240	39

4	園田苑	尼崎市	特別養護老人ホーム	10	56	193	2
5	パンセ	尼崎市	サービス付き高齢者住宅	2	12	40	16
	計			95	534	2102	208

養成講座

1	神戸女子大	ポートアイランド	LINE 打ち合わせ含む	3	6 + 3 + 6	64	1
2	25 期養成講座	ふたば学舎	LINE・zoom 会議含む	3	11 + 2 + 24	1 + 5	0
	計			6	52		

その他の活動

	月日	内容				実習生	一般参加
1	5 月 14・26 日	総会時セッション	打ち合わせ含む	2	7 + 19		
2	1 月 12 日	つなぐ会			12	2	7
3	3 月 6 日	ズーム入り方学習会			10	1	0
4	3 月 19 日	プラン作り方学習会			12	3	0
	計				60		

※2023 年より神戸女子大学ミュージックセラピー講座を引き続きハーモニー養成講座と位置づけ、実習 6 回で修了とし、ハーモニー会員へ勧誘する事としました。

◎24 年度で神戸女子大生 2 人ハーモニー会員となりました。

五、情報提供に関わる活動

ホームページをより必要な情報を得られやすく、かつ新しい情報提供もしやすく、そしてセキュリティ上安全なものに改修しました。当法人として様々な活動を知らせる役割で大きく期待しています。

当法人の会員や当法人の設立母体の中心である生活クラブ生活協同組合都市生活の組合員への情報提供が十分出来ていないことが反省点です。

六、他団体との連携

いくつかの市民活動団体と連携・協力関係を築いています。2024 年度は以下の団体に参画しました。

☆生活クラブ生活協同組合都市生活

☆阪神医療生活協同組合(監事=池田)

☆ひょうご市民活動協議会

☆被災地 NGO 協働センター(運営委員=池田)

☆CODE 海外災害救援市民センター

七、財政状況

1. 全体収支

- ・当期正味財産増減額は898万円の減少であり、132万円の増加を目指した予算に対して1,030万円不足、前年実績より526万円の大幅後退となりました。
- ・経常収益は1億1,205万円で、前年実績より897万円減少しました。訪問介護事業を予定通り5月に終了した結果の対前年減少は1,007万円でした。他の事業は前年実績より増加しましたが、予算で目指した531万円には届かず、110万円の増加にとどまりました。
- ・経常費用は1億2,095万円で、前年度より371万円節約しましたが、収入の減少をカバーすることができませんでした。

2. キャッシュフローと資金繰り

キャッシュ・フロー計算書（直接法）

項目	2023年度	2024年度	増減
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
営業収入	122,702,452	113,801,449	-8,901,003
原材料または仕入による支出	-5,012,513	-5,707,719	-695,206
人件費の支出	-81,696,524	-78,399,336	3,297,188
その他の営業収入	17,669,991	25,219,071	7,549,080
その他の営業支出	-56,356,052	-64,488,764	-8,132,712
小計	-2,692,646	-9,575,299	-6,882,653
利息の支払額	-119,024	-261,926	-142,902
法人税等の支払額	-82,004	-82,461	-457
営業活動によるキャッシュ・フロー	-2,893,674	-9,919,686	-7,026,012
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	-107,000	-420,182	-313,182
投資活動によるキャッシュ・フロー	-107,000	-420,182	-313,182
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入れによる収入	11,432,277	8,060,378	-3,371,899
短期借入金の返済による支出	-7,193,576	-11,688,635	-4,495,059
長期借入れによる収入		15,000,000	15,000,000
長期借入金の返済による支出	-2,676,728	-2,703,618	-26,890
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,561,973	8,668,125	7,106,152
IV 現金及び現金等価物の増加額	-1,438,701	-1,671,743	-233,042
V 現金及び現金等価物の期首残高	4,057,859	2,619,158	-1,438,701
VI 現金及び現金等価物の期末残高	2,619,158	947,415	-1,671,743

- ・収支のマイナスはキャッシュ・フローにもそのまま反映し、営業活動によるキャッシュ・フローでは前年度より703万円のマイナスとなりました。

・この不足を補うため、総会の承認を得て、新たに1,500万円の長期借入を行いました。

八、組織

1. 運営組織

1) 総会

・2024年度通常総会

日時 2024年6月15日(土) 10時半から12時半まで
会場 武庫之荘北会館1階会議室(兵庫県尼崎市)
出席者 29名(内訳:実出席13名、書面議決16名) ※正会員総数 32名
審議事項 第1号議案 2023年度事業報告及び活動計算承認の件

(議決総数29・賛成29・反対0・保留0で可決)

第2号議案 2024年度事業計画及び活動予算承認の件

(議決総数29・賛成29・反対0・保留0で可決)

第3号議案 借入金承認の件

提案書の記述で金利が1.465%となっていましたでしたが正しくは1.475%でした。
協議の結果、主旨には全員賛成でしたが、記述に誤りが見つかったため、正確を記すために当日の採決は見送ることとなりました。

この議案の取り扱いは理事会に一任され、後日7月1日に開催した臨時総会にて改めて承認されました。

2) 理事会

	開催日	主な審議事項、協議事項、決定事項	出席者
第1回	2024年4月20日	生活クラブ生協からの借入、ホームページの改修	理事9名、オブザーバー2名
第2回	2024年5月18日	2024年度総会提出議案、総会開催のための確認	理事6名、オブザーバー2名
第3回	2024年6月15日	年度総会の運営について、社会保険労務士との契約	理事7名、オブザーバー2名
第4回	2024年7月20日	厨房機器の改修について	理事8名、オブザーバー2名
第5回	2024年8月24日	玄関ドア錠の改修について	理事6名、オブザーバー2名
第6回	2024年9月21日	月次の活動報告	理事8名、オブザーバー2名
第7回	2024年10月19日	就業規則の改訂、最低賃金の引き上げへの対応	理事7名、オブザーバー2名
第8回	2024年11月16日	月次の活動報告	理事7名、監事1名、オブザーバー1名
第9回	2024年12月21日	月次の活動報告	理事8名、オブザーバー2名
第10回	2025年1月18日	介護セミナーの開催、NPO法人への認定資格返上、あしすと居宅介護支援事業所の閉鎖	理事8名、オブザーバー2名
第11回	2025年2月22日	介護セミナーの開催、就業規則の改訂	理事5名、オブザーバー1名
第12回	2025年3月15日	月次の活動報告	理事6名、オブザーバー1名

会場は、武庫之荘北会館など

3) 武庫之荘会議

武庫之荘事業所の運営を円滑に行うための事業所管理者による連絡会議として毎月開催しました。

構成メンバーは、理事長、パンセ武庫之荘ホーム小規模多機能管理者、パンセ武庫之荘サ高住管理者、あしすと居宅・訪問武庫之荘管理者です。

4)ボランティア部会

都市生活コミュニティセンターのボランティア活動の発展強化のための議論と企画を行うための会議ですが24年度は開催出来ませんでした。

2. 会員

		2015	16	17	18	19	20	21	22	23	24
正/個人		30	35	34	31	31	29	28	26	26	22
正/団体		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
賛助/個人		186	191	183	180	163	154	149	136	130	122
賛助/団体		4	4	3	3	3	3	3	3	3	3
合計		224	234	224	218	201	190	184	169	163	151

3. 役員

	氏名	他の団体の兼務状況	当法人における経歴
理事長	寺嶋英介	生活クラブ生活協同組合都市生活監事 社会福祉法人神戸聖隷福祉事業団監事 社会福祉法人千葉育美会理事	'21.7理事長
理事	池田 啓一	阪神医療生活協同組合監事	'01.8 理事兼務事務局長(～'09.3) '09.4 理事兼務ソーシャルコート神戸北管理者(～'16.3) '17.10 理事兼務パンセ武庫之荘管理者 '20.3 理事兼務パンセ武庫之荘ホーム管理者
理事	小松 高志	生活クラブ生活協同組合都市生活職員	'21.6 理事
理事	岡部 眞紀子	ボランティアグループすまいる代表 ミュージックセラピーグループハーモニー代表	'05.7 理事
理事	菊田 宏子	生活クラブ生活協同組合都市生活常任理事	'19.6 理事
理事	酒井 一	東難波社会福祉連絡協議会会長	'21.6 理事
理事	山下 尚子		'15.7 理事(～'19.6) '21.6 理事
理事	都築 徳昭	尼崎市議会議員	'23.6 理事
理事	比戸 寿代		'23.6 理事
監事	林 佳子		'11.6 理事 '11.7 理事長(～'21.6) '21.7 理事(～'23.6) '23.6 監事
監事	松上 辰之		'23.6 監事

4. 事務局

1) 事務局体制

事務局(出納責任者、庶務業務責任者)	藤田 和世	
事務委託	松井 一郎	

2) 事務所所在地

事務所	兵庫県尼崎市武庫之荘本町一丁目 18-26
-----	-----------------------